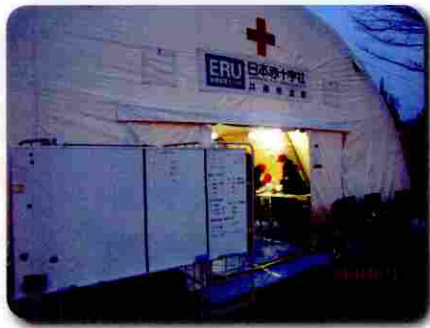


HAT CROSS

震災特集号

神戸赤十字病院広報誌
2011 vol.28



東日本大震災 救護班活動報告 ◆ 岩手県釜石市鈴子広場救護所



震災が起きてから約4時間後に日本赤十字社兵庫県支部の初動(第一)救護班(神戸赤十字病院救護班)が被災地に向かって出発しました。道中は比較的平穏でしたが、被災地に近づくにつれ緊張感が増してきました。まだ雪が残る東北地方。余震と、たびたび流れる津波警報という極度の緊張状態の中で、初動班が岩手県釜石市に立ち上げた救護所を維持し、被災者のために活動すべく、我々救護班は第三班として3月17日から4泊5日で行って参りました。

「もう一週間も経っているのに、まだこんな状況なのか」が、まず感じたことです。ライフラインの途絶、ガソリンの供給困難による移動手段の欠如。通信手段も回復しつつあるものの、情報収集が困難でありました。やったことといえば救護所診療と避難所巡回診療でしたが、一週間も経ちかなり疲れているであろう被災者の方々から、どこに行っても感謝していただき逆に元気をいただきました。

東北地方の一日も早い復興を祈念いたします。さらにそういった経験をさせていただき、我々を気持ちよく送り出していただいた病院職員、外科スタッフの方々に感謝しております。

外科副部長 [救護員指導者]

岡本 貴大 (第三・十八班)

REDCROSS REDCROSS REDCROSS

避難所では、乳児から高齢者まで幅広い方々が避難されていたが、行政、自衛隊、医療者、ボランティアなど全く介入のない状態であり、若い世代の人達が中心となり、炊き出しや泥の中から食料を探し出して調理するなど、地域の人々で助け合い、支えあっておられました。

初動班として仮設救護所の設置を行い、13日〜15日まで約百名の診療を実施。また、巡回診療も行い、避難所での被災者のニーズの把握や情報提供、こころのケアの導入を図りました。被災者の中には、車中泊の人も多く、中にはエコノミー症候群のリスクが高い状態の方もおられました。私たちの姿を見るなり泣き出す被災者もおられ、「同じ震災で被災を受けた神戸の人達がいち早くこの釜石に来てくれた」と感謝の声も聞かれました。

また、発災直後であり、救護活動中に余震・大津波警報の退避命令があるなど、命の危険と背中合わせの状態での活動でした。班長補佐として常に救護班員の安全が念頭にあり、大災害時の自己の役割責任の重さを痛切に感じました。

班員同士声をかけ合い、助け合いをしながら初動班の使命を全うしようとする個々の役割意識の高さ、チームワークの素晴らしさを感じました。良きチームに出会えたことに感謝したいです。

看護師長

葛嶋 元子 (第一班)



東日本大震災 救護班 活動報告 ◆ 山田町県立山田高校避難所

4月11日より、活動拠点を岩手県釜石市から山田町へと移し、山田高校での医療活動を開始しました。山田高校では、すでに救護所が立ち上がっており、教室を利用しての診療と避難所である体育館への往診が主な活動内容となりました。



我々が前任者より引き継いだとき、体育館内ではインフルエンザが大流行しており、インフルエンザ対策が急務でした。インフルエンザ発症者に対しては、別教室を用いての隔離とタミフルによる治療を継続しました。

また宮古保健所、岩手医科大学との連携を図り、手洗い・マスク着用による感染拡大の予防策を講じました。さらに、インフルエンザ発症者の周辺におられた方で、希望されなかった全員にタミフルの予防投与を行ったところ、インフルエンザ発症者は減少に転じ、終息にいたりました。

山田高校での活動は、避難所という特殊環境での医療活動、とくに初期はインフルエンザ対策が中心となり、公衆衛生の重要性、感染症に対する対策の重要性が再認識されるものとなりました。何とか任務を全うすることができましたが、この場をお借りして、救護活動を支えてくださった関係者各位に厚く御礼申し上げますとともに、山田町の復興を心から願います。

消化器内科副部長

白坂 大輔 (第九班)

RED CROSS RED CROSS

震災から2カ月すぎ、山田町の救護活動に参加する機会を頂きました。この頃には、慢性期の救護活動に移行していました。山田高校の救護所を拠点にして主に体育館に避難されている被災者の方でそのほとんどが高齢者でした。避難所生活が長くなっていることが原因で高血圧、不眠を訴える方が多かったです。山田町はもとも医療過疎地帯でしたが、この時は、いろいろなところに救護班が配置され、医療過密地帯になっていました。時期的には、救護班の縮小、山田高校からは救護班撤退の話がでていました。地域の病院も機能し始め、復興を促す為、いかに無理なく本来の姿に戻していくのか、地元の方で立ち上がっていくのに協力できることは何かを考えさせられました。また、長い避難所生活での合併症予防の為の知識、行動を身につけて頂けるよう、その2つの視点を活動の基本と考えました。実質、3日間の救護で何ができるのかとても悩むことは多かったです。だからこそ申し継ぎの重要性も感じました。今回の災害をおし、組織化された救護活動に参加でき、学びも多く、良い経験をさせて頂き、赤十字の職員であったことに感謝します。

看護師長

葉 和代 (第十五班)



RED CROSS RED CROSS

避難所内はテレビで見た以上の光景でした。ご高齢の方が多く、寝たきり状態に近かったです。震災初期はエコノミー症候群に気がつけてきたが、今は「生活不活発病」。聞きなれない言葉です。前班の理学療法士から情報収集。避難所内での歩行訓練、起居動作訓練、医師からの依頼で体操指導を開始。また、夕方は壇上に立っての集団体操。理学療法士の救護員として少し進化したと思います。生活不活発病とは、避難所では特に動く機会や果たす役割を失い、その結果、生活動作がままならなくなり、活動する範囲が狭まる状態になることです。特に高齢者は、筋力の低下、うつ状態、知的活動の低下、めまい・立ちくらみが起こりやすくなりがちで注意が必要です。

理学療法士 (主事)

高本 浩路 (第一・十二班)



最後の救護班は避難所の皆様から表彰されました!(涙)



東日本大震災救護班活動報告 ◆ 被災地での薬剤師・こころのケア活動

釜石市内の鈴子広場救護所では、軽度の外傷患者と常用薬を求める患者が殆どでした。今回の震災で、持参した救護薬品は主に初期に必要なとされる救急及び外科的措置を中心とした医薬品であったため、常用薬の対応には苦慮しました。しかし、主に地元の日赤支部を通して盛岡日赤などから調達しニーズに応えることができました。薬の交付は原則4〜5日分として対応し、また、巡回診療にも同行し医師に求められれば処方提案をし患者に服薬指導を行いました。今回は、早期より地元の災害対策本部と協力して調剤薬局を探索し可能な限り院外処方箋の発行を推進しました。このように地域医療機関との連携を図れたことは地元の自立復興を支援するためにも意味深いことであると感じました。



薬剤師 山岸 雄幸

(第一・十五班)



REDCROSS REDCROSS REDCROSS

もとより「災害におけるこころのケア」を自身の専門分野としてきた私にとって、今回の震災救護活動には強い思い入れがあり、3回の被災地での活動機会をいただきました。最初は救護班の一員として発災1週間目の釜石・大槌町での活動で、内科医としての診療であったが、その中でも涙ながらに辛さを訴えられたり、精神不安定な方もいらっしやう。十分な時間をさけなかったが、「医療救護班としての活動に自然とこころのケアも含まれてくる」ことを実感できました。2回目は5月初め、日赤兵庫支部こころのケアチームとしての岩手県山田町での活動で、グリーンフケア（遺族支援）という視点を中心に、地元保健師さんと連携しながら、避難所住民や保健師さんへのレクチャーなども行いました。3回目は6月末、石巻赤十字病院の本部支援で、これは以前から交流のあった同病院に対して、職員のメンタルケアを含めて長期的な支援を行っていくための情報収集目的でもありました。

「こころの傷」は目に見えず、多くの方がその必要性は認識しながらも、実践には様々な困難が伴います。阪神・淡路大震災や新潟中越地震などのこころのケアに携わった経験から、今後も末永く、この震災の「こころのケア」に関わっていこうという決意を新たにしました。

心療内科部長

村上 典子（第三班・心のケア班）

REDCROSS REDCROSS REDCROSS

神戸赤十字病院では、医師1名、看護師4名のこころのケア指導者が、定期的に救護員や防災ボランティアに対するこころのケア研修等を行っています。今回の震災で第4ブロックは、岩手県立山田高校での活動終了後、こころのケア班（こころのケア要員2名、主事1名）が、宮古市の保健師活動支援として避難所で活動を継続しました。私は第十二班（4月18日〜22日）の一員として山田高校、近畿ブロックこころのケア第二班（6月3日〜7日）の一員として宮古市の避難所で活動を行いました。

こころのケア活動は、指導者又は要員が救護班に同行して活動するという形から、救護員の1名がこころのケア要員として活動する体制で行なわれました。病院によって体制が異なることはやむをえませんが、継続性の面で問題があり、今後の活動のための課題と考えます。

看護師である私に何ができるのか不安を感じながらの活動でしたが、現地では医師を含むこころのケアチームが巡回という形で活動しており、また村上医師がいつでも相談を受けて下さるといふ支援体制のおかげで、どうか2回の救護活動を終えることができました。一緒に活動して下さったチームメンバー、派遣中病院を守って下さった皆様に、深く感謝いたします。

看護副部長

天野 智子（第十二班・心のケア班）

初動・移動そして撤収!

私は3月11日からの初動班と4月10日からの移動班、そして5月12日からの撤収班として岩手県での救護活動を行いました。

初動班は、発災と同時に神戸を発ち、陸路にて22時間かけて岩手県に入りました。不眠・不休での「情報収集」「救護所設営」「医療救護活動および避難所巡回診療」は、余震や津波警報がある中での活動であり、心身共に「疲れた」の一言。また、移動班

および撤収班は、医療資機材の移動・設営・管理が主な業務となり、救護班活動として被災された方々に対して、直接的に携わることには少なかったですが、任務を遂行し、間接的にでも微力ではありますが力になれたことに、赤十字救護班の一員として誇りに思っています。

最後になりましたが、被災地が一日でも早く復興し、平穏な生活が戻ることを祈念するとともに、被災地派遣時より皆様からいただきました、「応援」ならびに「ご支援」に、深く感謝申し上げます。

主事 沖野 恵司

(第一班・移動・撤収班)

REDCROSS REDCROSS REDCROSS REDCROSS

東日本大震災 神戸赤十字病院 派遣者名簿

| (兵庫県支部通算) | 派遣期間 | | 活動場所 (岩手県) | ☆:班長 ◇:看護師長 ※:こころのケア担当者 | | | | 備考 |
|-----------|-------|-------|---------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------|---|-----------------|
| | 出発日 | 帰着日 | | 医師 | 看護師 | 薬剤師 | 主事 | |
| 第1班 | 3月11日 | 3月15日 | 釜石市 | ☆戸田 一潔 | ◇葛嶋 元子 横山 杏花 沖野 美和 ※菊川 佳代 | 山岸 雄幸 | 上江 孝典 安部 史生 沖野 恵司 岡田 浩明 高本 浩路 | 釜石市鈴子広場に救護所を設置 |
| 第3班 | 3月17日 | 3月21日 | 釜石市 | ☆岡本 貴大 ※村上 祐二 横山 大鶴 | ◇坂根 千絵 安田 宮子 赤田 陽子 | 堀部 正記 | ※津島 由美 村住 敏伸 静観 雅子 | |
| 第4班 | 3月21日 | 3月24日 | 釜石市 | ☆原 淑恵 今田 宙志 西村 健 | | 池井 健 | | 多可日赤合同班 |
| 第6班 | 3月28日 | 4月1日 | 釜石市 | ☆松井 隆 並木 雅行 田原奈津子 水沼 健一 | ◇松本ゆかり 西村 尚美 浅田美奈子 ※末吉 弥生 | 村上 功一 | 小川 宗久 岡枝 正志 古岡 洋典 | |
| | 3月29日 | 4月5日 | 石巻日赤 | | | | 渡邊 致 | 病院支援(事務応援) |
| 第9班 | 4月9日 | 4月13日 | 釜石市 ⇒山田町 | ☆築部 卓郎 白坂 大輔 嶋津 聡一 松島 幸慧 | ◇石川 広子 矢田直樹 森智 恵子 ※須野見優紀 | 牛尾明日香 | 西海 哲也 岡田 浩明 谷口 賢志 | 山田町奥立山田高校に救護所移動 |
| | 4月10日 | 4月12日 | 釜石市 ⇒山田町 | | | | 村住 敏伸 沖野 恵司 | 救護所移動班 |
| 第12班 | 4月18日 | 4月22日 | 山田町 | ☆村田 武臣 越宗幸一郎 松橋 美波 大塚 崇史 | ◇野村美智子 大隈 圭子 山本 真澄 ※天野 智子 | 堀部 正記 | 高本 浩路 宮武 和弘 西本 匡利 | |
| 第15班 | 4月27日 | 5月1日 | 山田町 | ☆佐藤 淳哉 生方 綾史 | ◇葉 和代 岡田 拓也 ※井上恵美子 | 山岸 雄幸 | 池田 修 十川 正崇 | |
| | 4月30日 | 5月4日 | 山田町 | ☆※村上典子 | ※高田ゆかり | | | こころのケア班 |
| 第18班 | 5月6日 | 5月10日 | 山田町 | ☆岡本 貴大 木下めぐみ | ◇国出 和子 岡田 亜紀 ※赤松 麻美 | 安達 秀樹 | 上江 孝典 里山 恵代 | |
| | 5月8日 | 5月15日 | 石巻日赤 | | 西臺 真子 田淵 文子 | | | 病院支援(看護応援) |
| | 5月12日 | 5月14日 | 山田町 | | | | 安部 史生 西海 哲也 沖野 恵司 岡田 浩明 | 救護所撤収班 |
| | 6月3日 | 6月7日 | 山田町 | | ※天野 智子 | | | こころのケア班 |
| 派遣者数計 | | | | 25 | 29 | 8 | 28 | 総計 90 |

